乙貝

おとさだ

第５５号　通巻10巻第６号
１９９１年３月31日　発行

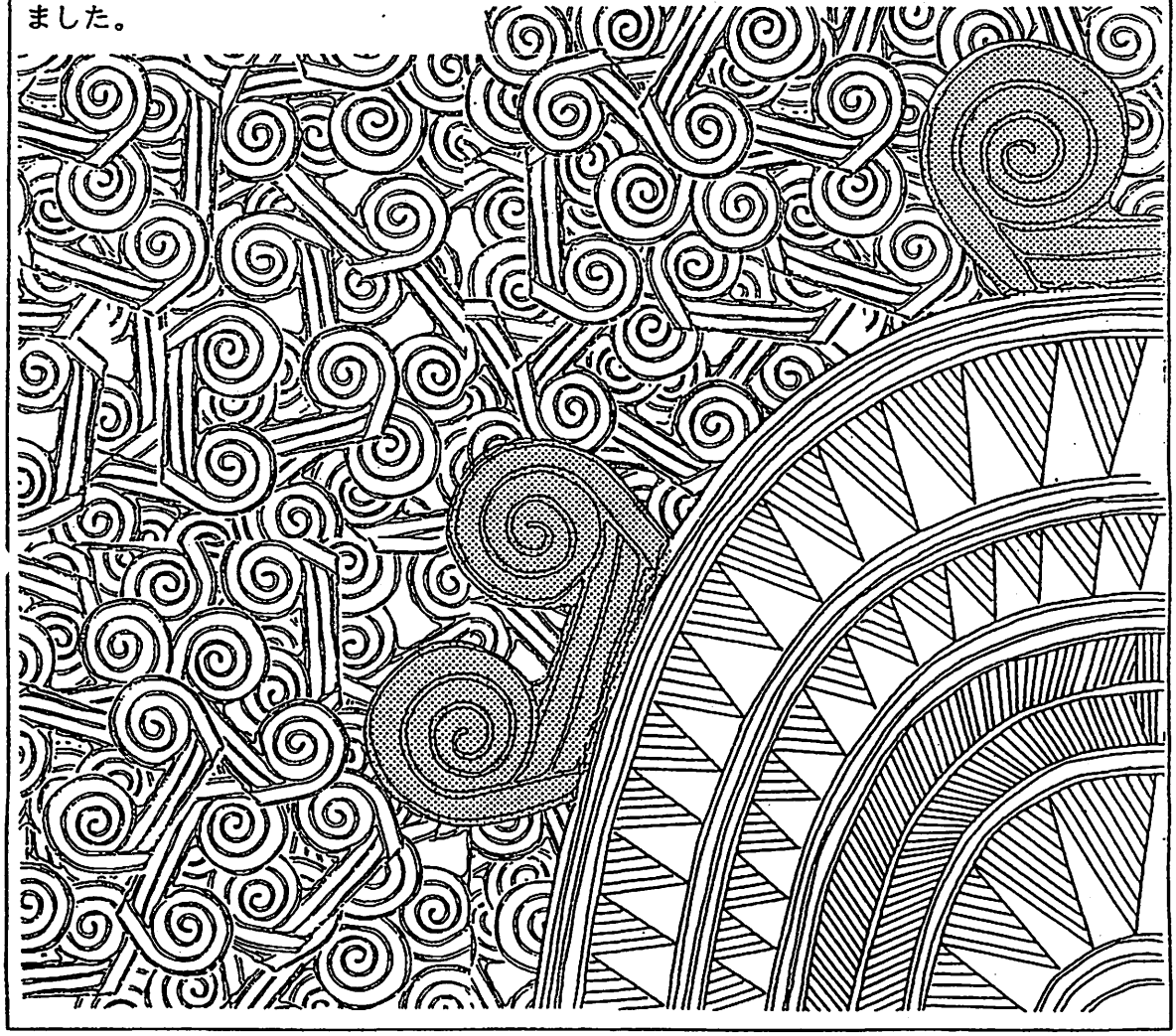
守山市立埋蔵文化財センター
☎０７７５－８５－４３９７

〒５２４－０２
守山市服部町２２５０番地

☆　はじめに　☆

各地で桜の開花が聞かれる時期になりました。センター周辺の桜はまだつぼみが堅いようですが、この陽気に誘われて一気に咲いてくれそうです。

今回の乙貝は年度末の総括として、平成２年度に実施した発掘調査のまとめを掲載しました。



☆　調　査　終　了　☆

1，　赤目(あかめ)遺跡

調査地.　　勝部町字深見

調査期間.　　3月13日～3月17日

調査面積.　　312㎡

調査実施の理由.　倉庫建築に伴う事前調査

調査概要.

赤目遺跡は、昨年の6月に行なわれた確認調査によって新たに見つかった遺跡です。その時の調査では、奈良時代の溝が1条見つかっていましたが、今回の調査では、江戸(えど)時代の幅4m、深さ1m程の溝が1条と土壙1基、風倒木痕(ふうとうぼくこん)などが見つかりました。

（川畑）

2　　石田(いしだ)遺跡

調査地.　　石田町字堂之辻232番地

調査期間.　　3月18日　～　3月22日

調査面積.　　200㎡

調査実施の理由.　社宅建設に伴う事前調査

調査概要.

調査地は石田町集落の南辺にあたり、県道赤野井・守山線と集落の中を流れる石田川とのちょうど真ん中に位置します。石田遺跡は過去の調査から古墳～平安時代の集落跡として知られてきましたが、今回の調査では方形周溝墓(ほうけいしゅうこうぼ)1基を検出しました。方形周溝墓とは弥生時代～古墳時代にかけての代表的な墓で、今回検出したものは幅約2mの溝が四角く巡(めぐ)り、一辺約 12.5mの大きさになるものと推測でき、古墳時代前期の時期に造られたものと考えられます。調査面積が狭かったため1基しか見つかりませんでしたが、調査地外にも多くの方形周溝墓が眠っていて、当地一帯が古墳時代前期の墓域となる可能性があります。

（岩崎）

3，　伊勢(いせ)遺跡

調査地.　　伊勢町2丁目

調査期間.　　２月４日　～　２月25日

調査面積.　　４５０㎡

調査実施の理由.　宅地造成に伴う事前調査

調査概要.

伊勢遺跡の南西端に位置していたため事前に試掘調査をしたところ、溝やピットが検出されたため、２月４日から発掘調査を実施しました。この結果、12～13世紀の掘立柱建物６棟、土壙７基、溝跡が多数検出されました。掘立柱建物のうち２棟は大規模な住居で２棟は副屋であり、大きな溝で区画された屋敷地の内に配置されていました。また、他の２棟は別の屋敷地内の建物です。遺物では土師器皿、黒色土器碗のほか、陶器、磁器が大量に出土しました。

まとめ.

今回の調査地点の付近では東方で主として同時期の集落が広がり、それぞれ区画溝をもった屋敷地から成っていることが徐々に判明しつつあります。

（山崎）

４，　川田遺跡

調査地.　　川田町字南山の中193

調査期間.　　12月３日　～　３月 31日

調査面積地.　　３０００㎡

調査実施の理由.　工場増築に伴う事前調査

調査概要.

今回の調査は第４次目にあたり、これまでの調査結果をふまえて、耕土下約１ｍのところで第一遺構面としました。ここでは桑畑の跡と思われる砂だまりを全域で検出したほか北側半分では土壙が数基見つかりました。下層でも南側半分には遺構は存在せず、北側半分に集中していました。調査区を縦断するように幅２ｍの溝が北から南へ延びＴ字形を呈して東、西へ流れます。またＬ形に曲がる溝２条が切り合って検出され区画溝思われます。時期は13世紀中～後半の遺物を含み、この中から蓮華座の蓮弁が一葉出土しました。

まとめ.

今回の調査地点では北東側半分に遺構が集中していました。検出した溝は昭和63年の調査で見つかった溝の続きで、T形、L形に開削されていることがわかりました。L形の溝から仏教関連遺物が出土したことから、信仰に関わる建物の存在がうかがえます。

（畑本）

5，　酒寺遺跡

調査地.　播磨田町字後一条　外

調査期間.　2月18日　～　3月20日

調査面積.　６００㎡

調査実施の理由.　区画整理事業

調査概要.

都市計画部分に引き続き区画整理組合の保留地分の発掘調査を進めてきましたが3月20日をもって終了しました。面積が 600㎡と少ないため、不明な部分も多いのですが以下のことが分かりました。まず弥生時代後期の円形竪穴住居が一棟見つかりました。残存する壁高は５cmと浅く、高坏の脚部などが出土しています。このほか、近世の掘立柱建物が１棟（３間×４間）検出されました。柱跡からは若干の土器が見つかっています。このほか農業用水路とみられる溝（幅２m、深さ30cm）が見つかり近世の焼物が出土しています。

まとめ.

区画整理に伴う調査で網状に酒寺遺跡を発掘してきたわけですが、まだ遺跡全体の様子はほんの一部しか判明したにしかすぎません。今後宅地化が進んでいくと思いますが、弥生～近世に至る大複合遺跡として開発に対応していく必要があります。

（伴野）

6，　中北遺跡

調査地.　川田町義丁 1560－5

調査期間.　1月23日　～　2月12日

調査面積.　２５０㎡

調査実施の理由.　個人住宅・駐車場建設に伴う事前調査

調査概要.

今回の調査地点は若宮神社の北東、川田町と中町のちょうど町境いで、中北遺跡の外縁部にあたります。調査の結果、現耕土直約30cmと45cmのところから２層の生活面を検出しました。上層面においては浅いU字状をした幅50cm程の素掘り溝を数条検出しました。これは鋤かえしの痕跡（耕作遺構）と思われます。耕作期間の詳細は明らかにできませんが、出土した遺物から鎌倉時代、もしくはそれをさほど遡るものではないと思われます。下層面においては、帯状に延びる畦畔状遺構と土壙が見つかりました。調査面積が狭く即断することは難しいのですが、畦畔状遺構を水田跡とみるとその耕作時期は弥生時代後期から古墳時代前期に納まるものと考えられます。

（川畑）

７，　二ノ畦遺跡

調査地.　　守山町字南百ケ町

調査期間.　　３月５、６日

調査面積.　　６０㎡

調査実施の理由.　店舗増築に伴う事前調査

調査概要.

小面積開発であり、造成地での調査であったため、幅２m、長さ９mの調査トレンチしか設けることができませんでした。遺構面は造成土、耕土を除去した高さ（地表下約 1､2m）で検出できトレンチの中において、古墳時代後期の溝状遺構と弥生時代の中期後葉の竪穴住居跡が確認できました。竪穴住居跡は円形で直径７m以上深さは約40cm残存しており、南壁下では周壁溝がみられました。丁度、住居の中央部付近を掘込んだ状況で中央に土壙が配され、その北側に第二次の床面での炉がありました。住居全体に２次生活面形成のための砂層が薄く敷かれ、そのうえに粘土を貼りつけていました。遺物は少なく、わずかに残る口縁部から中期後葉末に営まれた住居と考えられます。

（山崎）

８，　横江遺跡

調査地.　　大林町字高畑 357

調査面積.　　２００㎡

調査実施の理由.　農業用倉庫建設に伴う事前調査

調査概要.

今回の調査地は昭和58～62年に調査され、古墳時代と中世の大集落が見つかった地点の50m程北に位置しています。ここでは古墳時代の旧河道と鎌倉時代の井戸、土壙が見つかりました。鎌倉時代の井戸には井戸枠が残っていました。井戸枠は四隅に柱をたて、竹を縦方向に並べ横桟で保持する構造のもので、井筒には曲物が使われていました。曲物は２段に組み合わされ、ずれないように裏込めの石が隙間につめられていました。また、丸太杭や曲物の蓋板が曲物の中心に向かって打ち込まれていて、これも曲物のずれを防ぐ工夫と考えられます。

（宮下）

９,　吉身西遺跡

調査地.　　守山町字菰田 585-1、586-1

調査期間.　　２月12日　～　３月30日

調査面積.　　１８００㎡

調査実施の理由.　共同住宅建設に伴う事前調査

調査概要.

守山市立市民病院の東側を発掘調査しました。その結果古墳時代前期の竪穴住居跡と後期の溝多数を検出しました。竪穴住居跡は一辺が４mほどの方形住居跡で、東側コーナーにカマドが付設されています。また住居中央には火を焚いた跡があり、炉のような用途が考えられます。住居内からは当時使われていた土師器の甕・壺・高坏などが多く出土しました。調査地の南側および西側からは以前の調査で、この住居とほぼ同じ時期の竪穴住居跡が７棟見つかっており、今回の調査で古墳時代前期の集落がさらに北に広がることがわかりました。

（宮下）

10,　吉身西遺跡

調査地.　　守山町字南高田 1290、1291番地

調査期間.　　２月13日　～　３月６日

調査期間.　　2月13日　～　3月6日

調査面積.　　１４４２㎡

調査実施の理由.　共同住宅建設に伴う事前調査

調査概要.

今回の調査地は、県立成人病センター前の水田地で、昭和61年に区画整理された一画です。近年、次々に住宅や店舗が建設され、それに伴い発掘調査も数多く行なわれています。その結果、吉身西遺跡では縄文時代後期～平安時代の生活跡が数多く見つかっています。さて、今回の調査では、溝２条とピット数穴の検出にとどまりました。溝は調査地横の道路（区画整理）を調査した際にも検出していて、平安時代の遺構と考えられます。調査地辺りが吉身西遺跡の広がりの南端と想定されているように、遺構の密度もその中心からみると極めて希薄な状況でした。

（岩崎）

☆　調　査　中　☆

11,　塚之越遺跡

調査地.　　古高町字塚之越

調査期間.　　3月12日　～　4月下旬

調査面積.　　４００㎡　（予定）

調査実施の理由.　倉庫建築に伴う事前調査

調査概要.

３月下旬までに申請面積の半分について調査を行ないました。その結果、井戸１基、柱跡が百穴あまりとこれらに切られるかたちで方形周溝墓４基が見つかりました。このうちピットや井戸に関しては出土した遺物から10世紀代の遺構であることがわかりました。調査開始してまもないので、調査の結果は　次号で詳しくお伝えするつもりです。

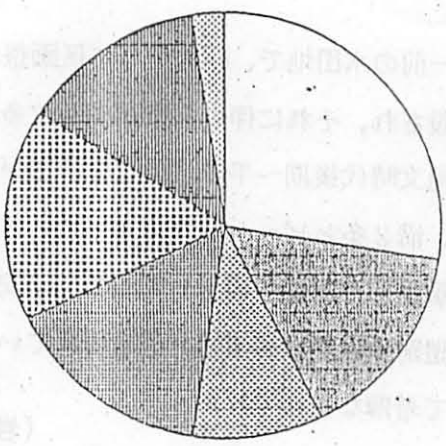
（畑本）

平成２年度市内遺跡調査のまとめ

本年度の調査は個人住宅関係に伴うものが19件、民間開発および公共事業関係が23件に達しています。なかでも公共および準公共事業の増加したことに特長があります。いずれも景気の好調さに影響され調査は著しい増加の傾向にあります。

守山市内遺跡調査

原因別調査件数



調査原因		
個人住宅	12	27.2%
共同住宅	7	15.9
道路	4	9.0
倉庫	7	15.9
工場	7	15.9
店舗	6	13.6
区画整理	1	2.2
合計	44	

平成２年度（１９９１）

【縄文時代】

下長遺跡、経田遺跡、伊勢遺跡の13次、16次の調査で遺構、遺物の発見がありました。下長遺跡では旧河道内で石器（石斧、石鏃）や土器がみつかり、晩期の資料を追加することができました。経田遺跡では中期の石皿、石鏃が、伊勢遺跡では晩期の土器と石鏃が吉身西遺跡では石鏃、石斧が出土しました。今年は、伊勢遺跡などの調査で今まで人が住んでいないと思われていた土層から遺物が検出されるなど、今後慎重に調査しなければならないことがわかりました。

【弥生時代】

下長遺跡、二ノ畦・横枕遺跡、八ノ坪遺跡では中期の、伊勢遺跡、酒寺遺跡では後期の集落跡が調査されました。下長遺跡では中期の竪穴住居跡が２棟、掘立柱建物跡３棟が見つかりました。近年掘立柱建物の検出例が増加していますが、竪穴住居跡と共存するものが多く、倉庫以外にも住居として普及していた可能性があります。また当遺跡地では旧河道を挟み両岸で生活を営んでいたこともわかってきました。

二ノ畦・横枕遺跡は今年３地点の調査が行なわれ中期の竪穴住居が２棟、大溝が２条

などが見つかり、環壕集落の規模や内側の様子を知る手掛かりを提供しました。八ノ坪遺跡では溝と住居跡の可能性のある遺構の一部が見つかりムラの一部だと思われます。酒寺遺跡では後期の円形住居跡が１棟発見されました。昨年度の調査でも近接地で円形住居跡が１棟見つかっていることから５～６棟の竪穴住居からなる集落が存在していたものと思われます。伊勢遺跡の調査では後期から古墳時代初頭にかけての方形竪穴住居跡が８棟見つかったほか束柱・棟持柱を持つ建物跡も見つかっています。中期から後期の集落は住居形式の変遷やムラのあり方を考えるうえで貴重な資料を追加したと言えます。

酒寺遺跡では中期からから後期にかけての方形周溝墓が７基発見されました。その結果、昨年の調査に続いて中央の墓道を中心に２列で 150mにわたり続いていくことが判明しました。

今年度の特記すべき出土遺物として下長遺跡の「銅鐸の飾耳」を挙げなくてはなりまん。古墳時代前期の溝から出土したものですが、この飾耳は弥生時代後期の銅鐸につくものです。下長遺跡の弥生時代のムラでは銅鐸を使った「まつり」が行なわれていると考えて良いかもしれません。市内では、江戸時代に新庄町から４口（４個）の銅鐸が畑の耕作中に見つかったという記録がありますが、今回の発見はそれ以来で貴重な発見と言えるでしょう。

【古墳時代】

古墳時代の調査では多くの成果を追加しました。まず集落跡の調査では、下長遺跡で古墳時代初頭から中期にかけての竪穴住居跡や掘立柱建物が多数みつかりました。なかでも古墳時代初頭の竪穴住居には一辺６～８ｍの方形住居跡の周りに直径15m程の円弧状の小溝が巡る特異な形式のものがあり、昨年度の調査も合わせると同集落内７～８棟程見つかっています。石田三宅遺跡、金森東遺跡、金森遺跡、塚之越遺跡の調査では前期の溝や土壙が小御門遺跡では後期の溝が検出されましたが住居跡などは見つからず今回の調査地点は集落の外縁部にあたるものと思われます。吉身西遺跡では今年４地点で調査が行なわれ前期と後期の集落が検出されました。まず前期の集落からは竪穴住居跡が１棟、掘立柱建物１棟、井戸１基などが見つかりました。遺物は

管玉、まが玉、有孔円盤、剣形模造品や滑石の原石など玉造りを示すものが多数発見され手工業生産の発達を考えるうえで貴重な資料を追加しました。後期の集落は出土した須恵器から５世紀～６世紀末までの期間が考えられます。酒寺遺跡では古墳時代後期の掘立柱建物群が検出され、柱穴内や土壙から多量の須恵器が出土しました。これまで弥生～古墳時代前期の墓域とみられていた同遺跡の一角に古墳時代後期の集落が存在することが今年の調査で明らかになりました。

墳墓の調査では経田遺跡で前期の方形周溝墓が６基見つかりました。墳丘や主体部は削平により残存していませんが墓道と陸橋の存在が確認されました。

水田跡が下長遺跡の旧河道のなかで見つかり、現耕作土から河床までおよそ２ｍの間で少なくとも４面の水田跡が確認されました。木製農耕具（田下駄や鋤）も同じ地点で数多く出土していて当時の技術や生活を知るうえで大切な資料です。また中北遺跡でも古墳時代初頭の水田跡が見つかりました。

【奈良、平安時代】

益須寺遺跡では今年３地点で調査が行なわれ、奈良時代のカマド付きの竪穴住居跡や平安時代の掘立柱建物跡が見つかりました。遺物は軒瓦をはじめ灰釉陶器や緑釉陶器などが出土しています。これらは、『日本書紀』に記載のある古代寺院「益須寺」の問題を考えるうえで貴重な資料を追加したと言えます。またこの外にも平安時代に関しては塚の越遺跡で掘立柱建物跡が見つかり、吉身西遺跡では幅６ｍ、深さ１ｍもある大溝から木下駄が出土しています。

【鎌倉、室町時代】

中世集落の調査が二町鏡遺跡、杉江東遺跡、伊勢遺跡、川田遺跡で行なわれました。二町鏡遺跡では鎌倉時代後期から室町時代にかけての屋敷跡４区画が検出されました。屋敷はいずれも溝で整然と区画されており、屋敷地内には大小の掘立柱建物跡と井戸が見つかっています。このような居住地を区画割りするタイプのムラは市内においても検出例が増えており、杉江東遺跡や伊勢遺跡でも同様の屋敷跡が見つかりました。川田遺跡の調査では鎌倉時代前期の区画溝から仏像を据え付ける蓮華座蓮弁が出土し、ムラの内で仏教信仰のあったことを物語る資料となりました。また墨書文字

のある石も見つかっており、あわせて中世川田ムラの復元に新しい情報を提供することとなりました。

【江戸時代】

江戸時代の遺構は、二町鏡遺跡、伊勢遺跡、下長遺跡で調査されました。二町鏡遺跡の調査では包含層から常滑、信楽、瀬戸、伊万里などの陶磁器、石臼など多数の生活雑器が出土しています。また伊勢遺跡では井戸が１基見つかりました。下長遺跡の調査では一辺４ｍの桝形に丸太を組み、その周囲四辺に竹列を柵状に組んだ湧水施設が見つかりました。枠内の地下３ｍのところからは近世陶磁器や木下駄が見つかっています。この湧水施設は古高町に保管される明治の地籍図や字限図に「池」として記録があり、江戸～明治時代にかけて一帯の水田を潤す池として使われていたと思われます。

＜春季特別展を開催します＞

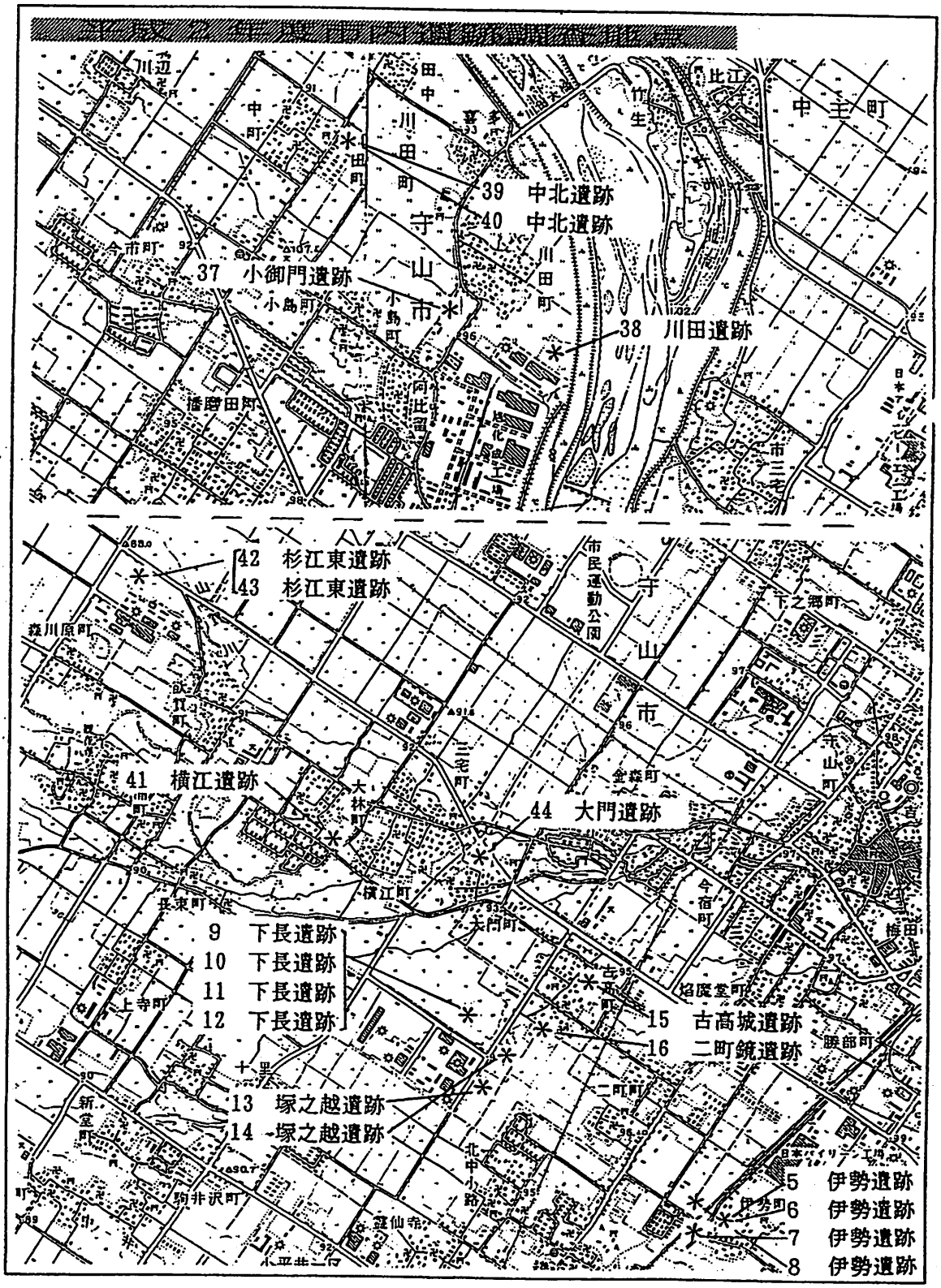
来たる５月１日より市立埋蔵文化財センターにおいて春季特別展を開催します。今回の特別展は調査速報ということで平成２年度に調査された遺跡の概要報告と出土遺物の公開を行ないます。展示する遺物には下長遺跡で見つかった銅鐸の「飾耳」や「銅鏡」などをはじめ、いずれも守山の歴史を理解するうえで貴重なものばかりですぜひ御来館ください。

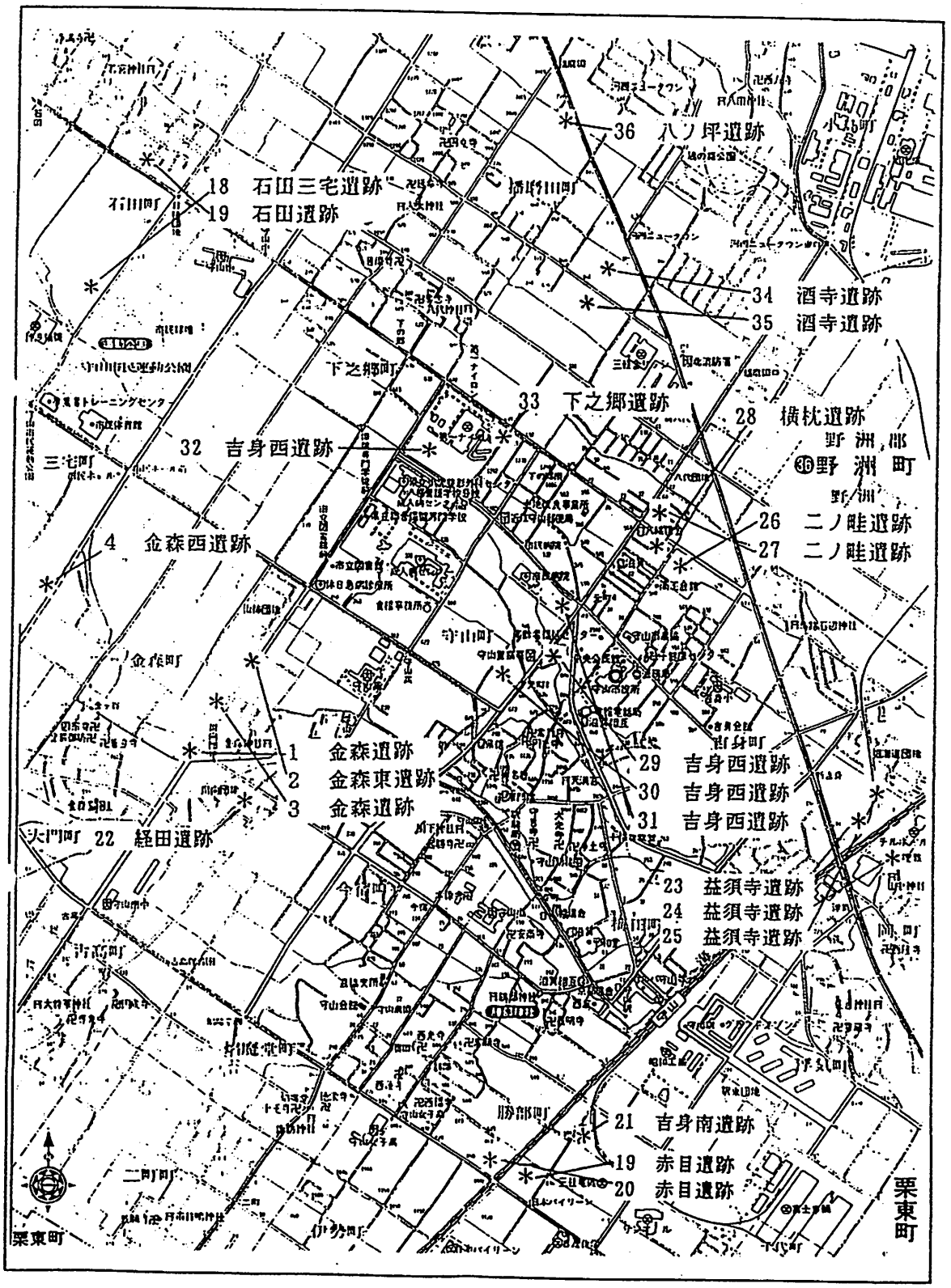
開催テーマ　『 平成2年度調査速報展 』

開催期間　5月1日（水） ～ 5月12日（日）　期間中無休

開館時間　9：00 ～ 16：00

関連行事　スライド会　5月3日（祝）　~~午前 10：00~~ 午後 2：00


39 中北遺跡
40 中北遺跡
37 小御門遺跡
38 川田遺跡
42 杉江東遺跡
43 杉江東遺跡
41 横江遺跡
44 大門遺跡
9 下長遺跡
10 下長遺跡
11 下長遺跡
12 下長遺跡
13 塚之越遺跡
14 塚之越遺跡
15 古高城遺跡
16 二町鏡遺跡
5 伊勢遺跡
6 伊勢遺跡
7 伊勢遺跡
8 伊勢遺跡


36 八ツ坪遺跡
18 石田三宅遺跡
19 石田遺跡
34 酒寺遺跡
35 酒寺遺跡
33 下之郷遺跡
28 横枕遺跡
32 吉身西遺跡
26 二ノ畦遺跡
27 二ノ畦遺跡
4 金森西遺跡
1 金森遺跡
2 金森東遺跡
3 金森遺跡
29 吉身西遺跡
30 吉身西遺跡
31 吉身西遺跡
22 経田遺跡
23 益須寺遺跡
24 益須寺遺跡
25 益須寺遺跡
21 吉身南遺跡
19 赤目遺跡
20 赤目遺跡
栗東町
栗東町

平成２年度　市内遺跡発掘調査一覧　（守山市教育委員会）

番号	遺跡名	調査地	調査期間	原因	時期	調査面積
1	金森遺跡	金森町地先	4月	共同住宅	古墳前期	20
2	金森東遺跡	金森町字東町	6月～8月	道路改良	古墳前期～平安	2000
3	金森遺跡	金森町地先	6月～8月	道路改良	古墳前期～江戸	500
4	金森西遺跡	三宅町保宅512-3	10月	個人住宅	確認調査	396
5	伊勢遺跡	伊勢町字上阿ノ図	4月～6月	個人住宅	鎌倉以降	約1000
6	伊勢遺跡	伊勢町字東溜	6月～8月	倉庫建設	弥生後期	700
7	伊勢遺跡	伊勢町字伊勢田	12月	個人住宅	弥生後期～鎌倉	80
8	伊勢遺跡	伊勢町２丁目	2月	個人住宅	鎌倉時代	400
9	下長遺跡	古高町地先	4月～6月	工場	縄文晩期～平安	3250
10	下長遺跡	古高町地先	6月～10月	工場	弥生中期～平安	3138
11	下長遺跡	古高町地先	5月～8月	工場	縄文晩期～平安	2022
12	下長遺跡	古高町地先	8月～10月	工場	弥生中期～明治	2000
13	塚之越遺跡	古高町字塚之越	4月	社員寮	古墳前期	400
14	塚之越遺跡	古高町字塚之越	3月～調査中	倉庫	古墳前期～	（未定）
15	古高城遺跡	古高町西円前66-9	8月	個人住宅	確認調査	141
16	二町畷遺跡	二町町字南平	8月～10月	道路改良	室町～江戸	1600
17	石田三宅遺跡	石田町字五一条	10月	店舗	古墳前期	499
18	石田遺跡	石田町字堂之辻	3月	社宅	古墳前期～	864
19	赤目遺跡	勝部町字下赤目	6月	事務所	奈良	150
20	赤目遺跡	勝部町字八反ロ869-1	3月	倉庫	江戸～	250
21	吉身南遺跡	勝部町字火屋西	6月～7月	社員寮	古墳後期	200
22	経田遺跡	今宿町字経田	6月～8月	個人住宅	弥生後期～古墳	2900
23	益須寺遺跡	吉身５丁目99番地	5月～7月	倉庫	平安	2400
24	益須寺遺跡	吉身町字浅田	11月～12月	工場	奈良～平安	1956
25	益須寺遺跡	吉身町字古戸47-2,3	1月～2月	共同住宅	時期不明	353
26	二ノ畦遺跡	吉身町字西ノ目	11月～1月	店舗	弥生中期～古墳	1800
27	二ノ畦遺跡	守山町字南百ケ町	3月	店舗	弥生中期～	60
28	横枕遺跡	守山町字南百ケ町	8月	個人住宅	弥生中期	165
29	吉身西遺跡	守山町字コモ田	11月	個人住宅	古墳後期	100
30	吉身西遺跡	守山町字南高田	2月～3月	共同住宅	平安～	1442
31	吉身西遺跡	守山町字孤田	2月～3月	共同住宅	古墳前期～	1800
32	吉身西遺跡	下ノ郷町７０８	8月～11月	工場	縄文～	2000
33	下之郷遺跡	下之郷町寺茨ケ町	2月	個人住宅	確認調査	224
34	酒寺遺跡	播磨田町地先	7月～2月	区画整理	弥生中期～	12000
35	酒寺遺跡	播磨田町字後一条	2月～3月	区画整理	弥生後期～	600
36	八ノ坪遺跡	播磨田町字深見	11月	個人住宅	弥生中期～	312
37	小御門遺跡	川田町字ミタ	8月～12月	道路改良	古墳～江戸	3078
38	川田遺跡	川田町字府山の中	12月～3月	工場	鎌倉～	3000
39	中北遺跡	川田町字発丁1560-5	1月～2月	個人住宅	弥生後期～鎌倉	200
40	中北遺跡	川田町字発丁1560-6	1月～2月	駐車場	弥生後期～鎌倉	200
41	横江遺跡	大林町字高畑357	1月	倉庫	古墳前期～	200
42	杉江東遺跡	欲賀町恩明寺413-1	1月	個人住宅	確認調査	300
43	杉江東遺跡	欲賀町恩明寺	4月	診療所	鎌倉～	100
44	大門遺跡	大門町字後出	2月	倉庫	確認調査	240

【後期】今年度は24遺跡44地点で発掘調査を行なったわけですが、この数字は近年にない調査件数となりました。おかげでこの『乙貞』も調査報告主体となってしまい申し訳なく思っています。今後は多方面にわたる情報等の掲載も心掛けていきたいと思います。（H記）